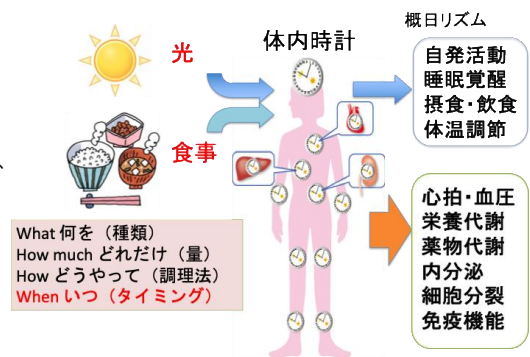



**栄養・子ども学部 健康栄養学科**
**教授 山本 浩範**
**YAMAMOTO Hironori**
**専門・活動分野 臨床栄養学**
**最新の研究内容**
**テーマ：リン・ビタミンD代謝調節機構と健康長寿に関する研究**
**研究/活動紹介**
**①時間栄養学を応用した新しい食育・栄養管理  
(時計遺伝子による栄養代謝調節の研究)**

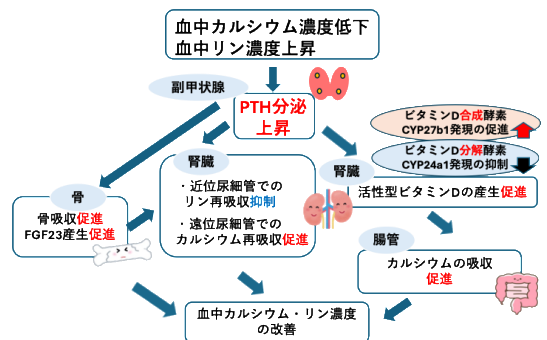
慢性腎臓病CKDや長期透析においては、リン、ビタミンDなど疾患特異的な栄養代謝変化を考慮した新たな栄養管理法の開発が、合併症・重症化の予防を考える上できわめて重要です。当研究室では、生体リン・ビタミンD代謝を理解するために、健康および腎臓病、糖尿病や炎症疾患モデルを用いて疾患特異的な栄養代謝変動について解析しています。成果としてリン、ビタミンDの代謝変動には日内リズムがあり、時計遺伝子が関与していることを見出しています。本研究成果は、時間栄養学を応用したCKDの新しい栄養管理に繋がると考えられます。

&lt;時間栄養について&gt;


**②カルシウム・リン・ビタミンDの役割と調節  
(ホルモンによる多臓器間の相互作用の研究)**

生体におけるカルシウム・リン・ビタミンD代謝は、副甲状腺ホルモン (PTH)、活性型ビタミンD ( $1,25(\text{OH})_2\text{D}_3$ )、FGF23などが協調して、血液中のカルシウムとリン濃度を一定に保つシステムで、主に腸管 (吸収)、腎臓 (排泄・再吸収)、骨 (貯蔵・遊離) が関与し、互いに連動して調整されています。当研究室では、生体でのリン・ビタミンDの役割や代謝調節のしくみについて研究しています。成果として食事性リンに生体応答する遺伝子群を新たに見出しています。また、生体のビタミンD代謝に関わる新たな調節因子についても解析を進めているところです。本研究成果は、従来報告されている栄養素の役割だけでなく新たな栄養素の生体作用の発見に繋がると考えられます。

&lt;カルシウム・リン代謝のしくみ&gt;


**産学連携/地域貢献へのアピールポイント、  
相談可能事項**

- ・「健康長寿のための食事・栄養の話題」など地域の方々を対象とした健康セミナー事業を受託しています。
- ・南越前町特産の食材 (梅) を活用した町づくり振興事業に参画しています。
- ・南越前町での子ども食堂の運営に参画しSDGs活動を行なっています。
- ・デイサービス事業における健康・食事・栄養に関する支援活動に取り組んでいます。

**学会・経歴**

所属学会団体：日本栄養改善学会、日本ビタミン学会、日本病態栄養学会、日本栄養食糧学会、日本骨代謝学会、福井県栄養士会  
 経歴：1999年 徳島大学医学部病態栄養学講座助手、2001年 米国ウィスコンシンマジソン大学 J.W.Pike 研究室 特別研究員、2003年 徳島大学大学院 臨床栄養学分野助教、2013年 仁愛大学健康栄養学科准教授、2015年～仁愛大学健康栄養学科教授

&lt;お問合せ窓口&gt;

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp